

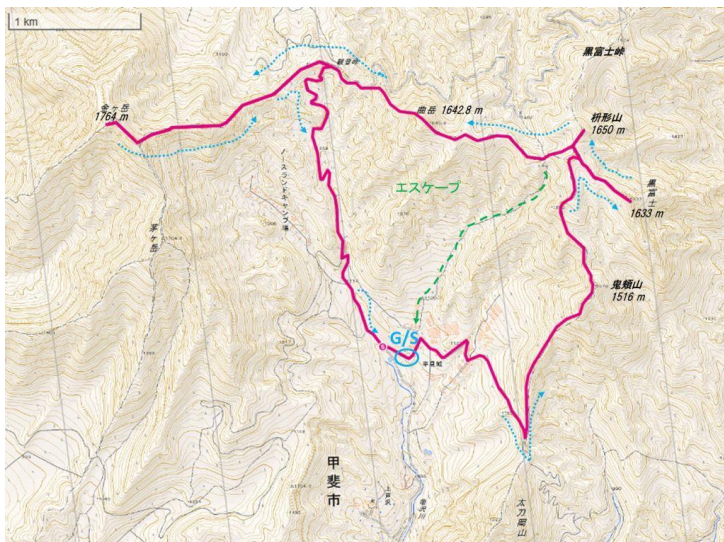
個人山行

奥秩父：黒富士

- ◆日程 2019年6月8日(土)
- ◆メンバー L：大塚
- ◆天候 晴時々曇

黒富士という名前に惹かれた。由来は黒富士峠から眺めると富士山の隣に並んで黒い富士山のように見えるからだという。ただ交通の便が悪い。近くにある人気の茅ヶ岳ですら、バスは一日一往復だ。車なら周回コースがベスト。梅雨入り直後のこの時期に富士山が見える確率は低い、日照の長さを活かして近隣のピーク巡りついでにと思い立った。

他に1台もない駐車場から出発。畜産エリアのため山羊がのんびり草を食んでいる。登山道に入ると蒸し暑く、緩やかな尾根は後半急登に。地面は湿って滑り易いが、ストックが良いペースメーカーだ。まずは最初のピーク鬼類山。眺望は今一つだが木陰で休憩には良い。次に黒富士を目指す、いったん八丁峰という稜線の交差点を経てピークに向かう。岩の急登後、あっさり頂上に躍り出たが遠方は雲に覆われている。黒富士峠まで行くかはその手前にある枳形山に着



いてから考えよう。八丁峰を経て枳形山に着くと視界は広く茅ヶ岳は見えるものの、その先にある富士山、南ア、八ヶ岳、瑞牆、金峰ことごとく見えない。10分程思案の末、黒富士峠はあきらめ、先を急ぐことにした。お次の曲岳は眺望がない。次第に空気が乾いてきたが今日はよく水を飲む。余裕と思っていた水2リットルの既に半分を消費した。ここから観音峠までは急下降。途中濡れた木の根で足を滑らせ大尻もち。しかも、峠から金ヶ岳までは急峻との警告あり。とにかく慎重に進む。実際かなり荒れており、岩場も多く消耗したが、会の仲間が喜びそうなルートだ。ピークからは甲府盆地が見えるが相変わらず富士山など遠方は見えず。あきらめて帰途に就き、湿った岩場などを慎重に下る。観音峠に近くなったところで、「船首岩」の表示。行きには見えない尖った岩の展望台だ。正面に曲岳、その左隣に金峰山と瑞牆山が遠望でき(写真中央)、後ろは金ヶ岳と茅ヶ岳。4月に登った時には雪を冠していた瑞牆・金峰はすっかり初夏の装いだ。ご褒美の眺望に満足して下山。長いが充実した一日だった。(記：大塚)

CT：自宅(車) 5:40=平見城入口駐車場 8:00/8:10 - 鬼類山 9:15/9:25 - 黒富士
 10:15/10:25 - 枳形山 10:50/11:10 - 曲岳 11:45/12:00 - 観音峠 12:45 - 金ヶ岳
 14:35/14:45 - 観音峠 16:15 - 平見城入口駐車場 16:55/17:15=自宅(車) 21:45

